カシオ計算機株式会社　〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

◎電波受信が行われない場合は、通常のクオーツ精度で動作します。◎電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行いますが、時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。◎電波受信は、季節・天候・時間帯・建物などの条件により受信できない場合があります。◎海外で標準電波を受信し、時刻を自動修正する場合は、ホームタイムの都市設定を変更する必要があります。◎表示価格は、全てメーカー希望小売価格です。●カタログ請求は、0570-022746（ナビダイヤル：全国一律料金でご利用いただけます http://casio.jp/support/contact/before/）PHS・IP電話からは、03-5334-4857へお掛けください。●機能・操作・購入先等のご相談は、0570-088955（ナビダイヤル：全国一律料金でご利用いただけます http://casio.jp/support/contact/before/）PHS・IP電話からは、03-5334-4869へお掛けください。〈受付時間〉月曜日～土曜日AM9:00～PM5:30（日・祝日・弊社指定休業日は除く）■〈個人情報の取扱いについて〉お預りする個人情報は個人情報保護法に基づき、適切な取扱いをいたします。またカタログ発送以外の目的では使用いたしません。

oceanus.casio.jp

◇◆◇ 6月10日は「時の記念日」 ◇◆◇

6月10日は「時の記念日」。時間の大切さを再認識し、生活の改善・合理化を図るため、1920年に設けられた。私たちが〝時〟を知る時計。日本における時計産業は16世紀中期のキリスト教の伝来とともに始まったと言われ、欧米の生産技術を積極的に導入してきた。業界初の市販用水晶式腕時計を開発し、精度の向上や薄型・軽量化、防水、耐衝撃、電波受信などの追加機能を搭載するなど着実に高機能化を進めている。2013年の販売は好調。14年は技能五輪に「時計修理」が復活するなど盛り上がりをみせている。

高額品の販売が伸長

市場動向

日本時計協会の調べによると、2013年のわが国のウオッチ完成品の総出荷額は前年比16%増の2145億円、クロック完成品は同4%増の288億円となっている。総出荷量はウオッチ完成品で前年比横ばいの6700万個、クロック完成品で同5%減の1600万個となっていることから、単価の上昇傾向が見られる。シチズンホールディングス、カシオ計算機、セイコーホールディングスの時計3社でも腕時計の好調な販売が増収増益を支えており、国内、北米を中心に高額品の販売が伸びている状況だ。

製品紹介

アウトドア関連は08年前後から毎年成長している有望な市場。近年、アウトドアシーンに活躍する腕時計にも各社が力を入れている。

シチズン時計は山に登る、海に潜る、空を飛ぶ環境下での機能を追求した「プロマスターシリーズ」を1989年に誕生させた。14年5月には地上1万㍍から海抜ゼロ㍍300㍍まで測れる高度計測機能付き腕時計「エコ・ドライブ アルティクロン・シーラス」を発売。内部コンパスで地磁気を計測し、時刻、高度、方位を全てアナログ表示で同時に確認することができる。電池交換が不要な光発電エコ・ドライブを搭載している。

6月12日には水深70㍍まで計測できるダイバー向け腕時計「エコ・ドライブ アクアランド」を発売予定だ。水深計測機能を従来の50㍍から70㍍に高め、本格的なダイビングにも対応可能にした。時刻表示を緑系、水深表示を青系に色分けし、確認しやすくしている。エコ・ドライブを搭載し、潜水前に充電量を確認できるよう9時位置に4段階で表示される仕様になっている。

14年3月にカシオ計算機が発売したアウトドア向け腕時計「プロトレック」シリーズの2014年版「PRW-600」の販売は好調。方位、高度、気圧、温度などを測れ、登山などの場面で役立つ。新型センサーで従来品をさらに小型化したため、女性からの支持を獲得しているという。

セイコーウオッチ「プロスペックス」からは、13年にエベレスト世界最高齢登頂記録を樹立した三浦雄一郎氏と共同開発した「ランドマスター」や、息子の三浦豪太氏監修の「アルピニスト」シリーズなども出ている。

国際標準化

時間は全世界共通の単位で、時計は日本製でも外国製でも、どこでも誰もが使えるもの。時計全般に関しての積極的な国際標準化活動が行われているのが、国際標準化機構（ISO）の時計専門委員会（TC114）だ。

日本は1965年にISO／TC114に加盟。国内の審議対応は日本時計協会が行い、「時計の精度表示（SC11）」「時計の耐磁（SC12）」では日本が幹事国として国際標準化をリードしている。

TC114ではウオッチ用二次電池、硬質ケース、耐衝撃ウオッチ、ダイバーズウオッチなどについて議論が行われており、日本も積極的に関わっている。

シチズン時計が6月12日に発売予定のダイバー向け腕時計「エコ・ドライブ アクアランド」

技能五輪に「時計修理」

30年ぶり 競技復活

時を刻む……人を育てる

2014年は技能五輪全国大会で「時計修理」が約30年ぶりに復活する。同競技は機械式時計とクオーツ時計にあらかじめ作り込まれた故障箇所を探し、修理する課題や修理道具の製作などを行う。

1970年の第8回大会から87年の第25回大会まで17回にわたって競技が行われ、技能五輪国際大会では日本から5人の金メダリストを輩出した。しかし参加国の減少などから廃止となったため、全国大会の競技種目でも廃止された。2012年に時計産業が盛んな長野県で全国大会を開催するのにちなんで、24年ぶりにデモンストレーション競技として行っていた。

腕時計は時刻を知る、時間を計る機能性と、ファッション性を持つ。時計修理は正確により早く機能を修復するだけでなく、装飾品として美しく、持ち主の思いに応える技術とセンスが求められる。

「時計修理」競技の主査を担当している日本時計協会では「チャレンジの場をつくることは大事」と人材育成に積極的に取り組んでおり、子どもたちに時計の魅力を知ってもらうイベントなども行っている。7月25日から31日まで、キッザニア東京で「時計職人」を開催。技能五輪優勝経験者も含む職人と一緒に、時計の歴史や仕組み、時の記念日やうるう秒などを学びながらオリジナル時計を完成させる人気のイベントだ。

また、6月14、15の両日、東京・有明の東京ビッグサイトで開催される「東京おもちゃショー2014」（日本玩具協会主催）では「めざまし時計組立体験教室」を開催する。

日本時計協会では時の記念日のきょう、時と時計を楽しく学べるページ「キッズタイム」を新設するなど、ウェブサイトをリニューアル（www.jcwa.or.jp）。時計の魅力を一般消費者、若年層にも広く発信していく。

子ども向けイベント

来月25日から開催